



人間ドックの項目に『FIB-4 index』と『体組成測定』を追加します

当クリニックでは、2023年4月より人間ドックの基本項目に『FIB-4 index』と『体組成測定』を追加します。『FIB-4 index』は健診結果表の「免疫・血清検査・その他」の欄に記載されますので、ご確認ください。また、詳細については下記に記載いたしますので、ご参照ください。

『体組成測定』は、体脂肪率、筋肉量、体水分量、推定骨量等の全身チェックに加えて、基礎代謝量や筋肉・体脂肪の部位の分析、筋肉量の左右バランスなど測定することが可能です。測定結果は受診日当日にお渡しますので、ご自身の体組成をご確認ください。

※測定機器の違いにより、体組成測定と健康診断の身体測定の結果に誤差が生じる場合があります。身体測定の結果は健診結果表をご参考ください。

肝臓の硬さの指標 『FIB-4 index』

当クリニックでは2023年4月より、肝臓の硬さの程度を血液検査で簡単に知ることが出来る「FIB-4 index (フィブフォー インデックス)」を導入します。

肝臓病が進むと、肝臓は徐々に硬く変化していきます。肝臓が硬くなってくることを「線維化」と言い、線維化が進むと肝臓癌のリスクが高くなります。

日本の肝臓癌はこれまで、C型肝炎ウイルスによるものが7割近くを占めていました。以前のウイルス治療はインターフェロンという注射薬(半年間)でしたが、ウイルスを除去出来たのは患者さんの50%程度で、ウイルスを除去出来なかった方に肝臓癌が多く発生していました。薬の開発が進んだ現在では内服薬(8週間)でほぼ100%の患者さんのウイルスを除去出来るようになり、C型肝炎は「治る」時代になりました。

しかし、C型肝炎が治る時代になっても肝臓癌はあまり減りませんでした。新たな原因として台頭してきたのが「脂肪肝」です。脂肪肝はこれまで「肝臓の中に脂肪が溜まった状態」としか考えられていませんでしたが、脂肪肝によって線維化が進んで肝臓癌が発生する事例があることがわかってきたのです。

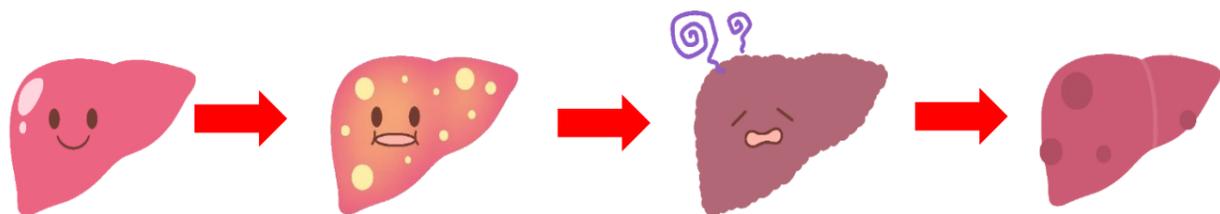
肝臓癌のリスクである線維化の程度を、血液検査の数値から簡単に推測する方法として、FIB-4 index という計算式が開発されました。

FIB-4 index は、血液検査のAST、ALT、血小板数、および年齢の4項目から計算される数値です。線維化(fibrosis)の程度を4つの項目で推測することから、FIB-4 index と名付けられました。これらの4項目は人間ドックの基本項目に全て含まれています。

FIB-4 index が1.30未満であれば線維化が進んでいる可能性は非常に低く、2.67以上であれば線維化がかなり進んでいることが推測されます。また、肝臓の線維化は肝臓癌だけでなく、他の臓器の癌(大腸癌、膵臓癌、乳癌)や心血管疾患(心筋梗塞、脳卒中)のリスクになることもわかっています。

腹部超音波検査で脂肪肝を指摘されている方は、肝機能だけでなくFIB-4 index の数値にも注目して下さい。

副所長 森山 優 (日本肝臓学会認定 肝臓専門医)



人間ドックにおける常染色体優性多発性嚢胞腎のスクリーニングの重要性

常染色体優性多発性嚢胞腎(ADPKD)とは、両側の腎臓に多数の嚢胞(球状の袋でなかに液体がたまっている状態)が生じる遺伝性の疾患です。肝嚢胞の多発や脳動脈瘤など腎臓以外の臓器にも障害が生じます。加齢とともに嚢胞が徐々に増大・増加することにより腎臓が腫大し、腎機能が低下して、60歳代までに約半数が末期腎不全に至ります。末期腎不全にまで進行すると透析療法か腎移植が必要となります。2014年からADPKDの治療薬が保険適用になり、2015年から指定難病となり、早期からの治療により病気の進行を遅らせることが可能となりました。30歳~40歳代までは無症状であることが多く、腹部超音波検査によって早期発見することが重要であると考えます。

当クリニックの人間ドックにおけるADPKDの指摘状況と、腹部超音波検査による腎嚢胞の有無、血液検査で腎機能を表す指標のeGFR、腎臓の病気によって陽性となる尿蛋白・尿潜血について調査しました。

調査の対象は2018年4月から2019年3月までに当クリニックの人間ドックで腹部超音波検査を受診した36,930名です。年齢の内訳は、60歳未満が81.8%、60歳以上は18.2%です。

腹部超音波検査からADPKDと疑われた方は20名でした。20名の年齢の内訳は、60歳未満が85.0%、60歳以上は15.0%でした。20名のうち、専門医受診者は10名おり、ADPKD・ADPKD疑いと診断されたのが4名でした。(4名全員60歳未満)このうち、eGFRと尿検査から腎機能の低下が疑われたのは1名でした。一方、専門医未受診者・受診不明者は10名でした。このうち、腎機能の低下が疑われたのは3名でした。

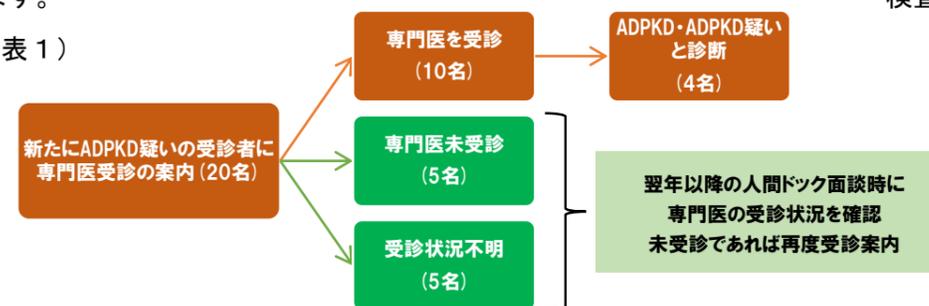
(表1)

この結果から、年齢が若いうちから腹部超音波検査を実施することにより60歳代までにADPKDを発見できる可能性が高いと考えられ、腹部超音波検査を受診することの有効性が示唆されました。更に当クリニックでは、新たにADPKD疑いの受診者に対し、腎機能が正常なうちに専門医への受診を案内しています。またADPKD疑いと指摘され、翌年も専門医未受診だった場合には、早期に受診するよう人間ドックの面談時にも指導しています。

希少疾患であるため、職員の教育と情報の共有により知識と理解を深め、受診者の皆様には疾患に関する正しい情報を提供できるよう努めてまいります。そして、専門医への早期受診をさらに積極的に勧めたいと思います。

検査部 塚田 こそ恵

(表1)



健康相談室だよりは当クリニックホームページにも掲載しております。バックナンバーもご覧いただけます。

ご意見・ご要望等ございましたら、遠慮なくご連絡ください

ホームページ URL : <https://www.omiyacityclinic.com/>

ご意見・ご感想 : sodan@omiyacityclinic.com

